

希望するすべての子どもたちに豊かな高校教育を保障するための請願書

2006年9月
鹿児島県議会議員
金子 万寿夫 様

請願者住所 鹿児島市谷山中央4-4955-16
請願者名前 尾崎 一治

紹介議員 福山秀光

本県の05年10月の高校進学希望は、前年度を0.3ポイント上回る過去最高の98.5%に達しており、資格取得や就職の求人等の条件に見られるように、今や高校を卒業することは社会的な要請にもなっています。そして、「せめて高校までは…」という子ども・保護者の強い願いもあります。1999年に出された中教審答申も「事実上すべての国民が学びうる教育機関」として高等学校を位置づけています。

しかし、受験者数が年々減少する中で、本県でも依然として定員内不合格者が出ており、希望するすべての子どもが高校で学ぶことを保障されている実態にありません。また、県教委が進める高校再編計画は、今年で4年目を迎えますが、統廃合対象校の地域住民や保護者、教職員そして生徒から計画の拙速さや地元住民に対する説明不足や納得を得られないままの見切り発車に対し不満と憤りの声が、ますます強くなってきています。高校再編や募集定員削減により自分の意志とは違う進路選択をせざるを得ない状況に追い込まれた子どもたちも出てきています。

「高校再編関係市町村かごしま県連絡会」は、県教委に対し「再編計画の抜本的見直し」を強く求める要請も行っていきます。また、始良地域の再編整備の先送りや川薩地域の「地元案」を覆したことなど、教育行政に対する不信も強まってきています。

過疎地の近辺から高校がなくなることは時間的にも経済的にも負担増になるばかりか、県下の高校生の就学状況に不均衡を起こしてしまいます。また、地域の衰退にも大きく係る重要な問題です。

さらに、学区外入学の「一定枠」を5～10%へ拡大したことにより進学校への希望が増え、学校間の格差が拡大するばかりか受験競争の激化をますます招くことになっています。

就労構造の変化や社会の二極化など、経済的苦境に立ち、高校を中退せざるをえない子どもたちや、授業料等の未納や交通費など、経済的な不安や心配を抱えながら学校に通う子どもたちも多くいます。いまほど公立高校の重要性が問われている時期はありません。

以上のことを踏まえ、希望するすべての子どもたちに豊かな高校教育を保障するために、下記の事項を県の教育行政に反映させるよう請願致します。

請願事項

1. 県教委の「かごしま活力ある高校づくり計画 基本計画」の抜本的な見直しを図ること。現在進められている再編整備・募集停止については、情報を広く県民に公開しつつ、一方的なトップダウン方式を改め、生徒や保護者、教職員、地元住民の声を十分に聞きながら地域の実態に即して進め、安易な高校再編・募集停止を行わないこと。
2. 中学校卒業予定者減に伴う機械的な募集定員の削減は行わないこと。
3. 一次選抜・二次選抜とも定員に達しない場合は、希望者を全員受け入れること。
4. 「障害」のある子どもにも後期中等教育を保障するために、高校に「障害」児学級設置，高等部の設置されていない養護学校すべてに高等部設置を検討すること。
5. 社会的，経済的な事情から高校入学をあきらめたり，中途退学を余儀なくされたりする子どもが増えている現状があることから，授業料の減免制度及び奨学金を拡充すること。

名 前	住 所

